



『しまの宝』

第15号 R2.11.4発行

文責：校長 日高 洋子

いろんな思いを一句

長崎新聞のジュニア俳壇に児童生徒の句が掲載されました。中でも2年生の中野紗菜さんは2回目の秀逸に選ばれました。お見事です。国語の時間に学級で友人が蚊を退治したのを見てぱんと思ひ浮かんだそうです。国語の田口先生が、その瞬発力を感心していました。潤奈さんの句は素直な気持ちが表れた良い句だと思います。嬉しくなります。

小学生も「レッツ575」に掲載されました。中学生に負けないくらいの、素晴らしい句です。美しいイチョウに女の子らしい情景を重ねる南那美さん(小4)の句と、花より団子の琉嘉さん(小6)の様子が面白いです。

【ジュニア俳壇】

- ヒーローは 声援受けて 蚊を倒す (秀逸) 紗菜 しな 帆 ほ 南 な 潤奈 うるな
- 台風が 1日くれた 修学旅行
- 家事代わり 分かる 母のありがたさ 潤奈

【レッツ575】

- 舞い降りる イチョウひらひら バレリーナ 南那美 みななみ 琉嘉 りゅうか
- 月の夜 すずき左手 もち右手

文化面でも大活躍！

1年生の一ノ瀬彩さんが「税についての作文」に応募して、福江税務署管内納税貯蓄組合連合会会長賞に入選しました。税のことについて、彩さんなりの考えをまとめています。「税の使い道」として、自分の身近な「教科書」に書かれた言葉で税の使い道について調べ、その必要性に気づいた、という内容です。

税の学習をする中で、税金がどのように使われているかを考えることは、自分の「生き方」に繋がる大切なことだと思います。子ども達の学習が実践する力になってくれると期待したいです。

久賀っ子の心を見つめる教育週間の道徳授業

本来なら6月に期間を設定する予定だった「久賀っ子の心を見つめる教育週間」でしたが、コロナ感染症拡大を受けて、10月に延期となりました。この期間は、子ども達に「命の尊さ」について改めて考えさせるため、道徳の授業を行い、しま親さんや家族留学の保護者の方々に参観していただきました。

また、しま留学で来ている子ども達の保護者にも、子ども達が一生懸命に「命の大切さ、尊さ」を学習している様子を見ていただきたくて、職員が機器を駆使し、リモートで授業を見られるようにしました。子ども達は、真剣に内容に取り組み、その姿に保護者の方も感心していました。



3, 4年生の授業の様子
2人とも、感想を自分の言葉でしっかり書けました。

5, 6年生は先生の話聞く態度も真剣です。先生の手元の教材に身を乗り出して。



中学生は、自分と違う意見に、きちんと耳を傾け、向き合うことができます。頼もしいです。



校長講話に真剣な表情の小学生

中学生の日課と小学生の日課は授業が5分違うため、どうしても業間が合わなくなってしまうため、久賀小中学校では小学生は2時間目と3時間目の業間を15分の「チャレンジ」という時間として様々な活動をしています。

その中で、校長からの講話をさせてもらいました。「努力と継続」の話です。

関山慧玄が雨漏りを受けるためザルを持ってきたお弟子さんの判断力を褒める話と五島市内の中学校の実際にあった話で、ある生徒の素早い判断力とリーダーシップで、困っている仲間を救ったという話をしながら、そこには努力とそれを継続する力が必要だという話をしました。

10分間の話に難しい言葉がいくつもあったために小学生には少し理解が難しい内容だったかもしれませんが、特に「雨漏りのザル」の話は聞いてほしかったのです。常々、学校の行動目標として掲げる「敢為の精神」に繋がる話だったからです。子ども達はつたない私の話を真剣に耳を傾けてくれました。



その姿を見ながら、話を聞く真剣な態度ができる子ども達の姿に「努力」や「継続」の話は釈迦に説法のような気がしていました。4月に全職員で11名の児童生徒をしっかりと育てます、と保護者にお約束したからには、その成果を出すべきだと思いますが、こんなところにも先生方の徹底した指導が生きて、何事にも一生懸命に取り組む子ども達が育っていることに、子ども達が一歩ずつ、自分の未来を自分で切り開いているという実感が持てます。これからも、いろいろな行事で、子ども達の成長が見られると嬉しいです。

中学生が職場体験

来年の本格的な職場体験学習を前に2年生4名が久賀にある職場を訪問し、体験させていただきました。職場体験というより、見学のような短い時間での体験でした。JAごとう様、エビ養殖場の拓水様、肥育業の松本様には、お忙しい中、生徒達一人ひとりに丁寧に仕事を教えていただき、大変お世話になりました。生徒達は働くことの意味や目的を考え、将来のために、今自分たちが何をすべきかと考える良い機会になったと思います。

仕事から帰った生徒達は口々に「疲れた」といいながら、それでも「楽しかった」と言っていました。働く喜びにも触れる、絶好の体験ができたと思います。お世話になった皆様、ありがとうございました。

潤奈さんはJAごとうにお世話になりました。在庫を調べたり、商品を並べたり見えないところでの仕事に驚き！



壽之亮さんと紗菜さんは2人でエビの養殖場へ。寒いときの水仕事は大変！実感！

優樹さんは、一番体力を使う肥育の仕事へ。大変な中にも、やりがいのある仕事だと実感。しかし、疲労度は半端なく、帰って来て、食べた給食が、一番おいしかったかもしれません。



来年は更に長い期間(2~3日)お世話になります。よろしく願います！